



雲晴

新年号

「雲晴」第十三号

平成二十七年一月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五-四六-五
電話(〇三) 三六二七-三四一五
FAX(〇三) 五六九九-五九一五

謹んで新春の

お慶びを申しお上げます

一年の大きな区切り、お正月を迎えました。春夏秋冬、季節は変わり、社会は刻々と遷っております。「平穩無事」は望ましく、結構なことでありますが、人の一生にも、いくたびか起伏があつて、得意のときもあれば、時には嘆息のするような時もあります。平常のことに慣れるとき、つかうかつかいと過ごし、お正月ともなると、何かハツと気付く処があります。

お正月にはよく「今年こそ」の気構えを持つものですが、慢性的に惰性におぼれがちな向上も進歩もない生活から踏み出して、前進へのきつかけ、はづみをつかまえようとする事であります。

そんな正月を過ごし、立春の声を聞くと、北国の人は雪解けを思い、土への恋しさを募らせるといいます。雪が溶けて黒々と覗く土から、草々が萌え出る。しかし地方では、まだスキー

シーズンたけなわ。若者たちの華やかなウエアに新春を思う季節です。

さて、春になると蠢き始める動物たちや草花は、このころ、どこにいたのでしょいか。二月になると、ツバキの開花前線は関西以南から関東地方の海沿いにかけています。タンポポが見られるのは宮崎・山口など、ごく一部。九州でウグイスやヒバリの初鳴きが聞かれるのは、二月も末になってからです。

しかし、まだまだ早朝には地面が凍てつくような日もあるようです。

それでも日中に、南の陽だまりに目を凝らすと、名もない緑の芽たちが春の訪れに応えているのがわかります。

ただ、立春といっても暦の上で、むしろ冬の真つ只中なのですが、気温がぐぐつと上昇してゆき、十二月の冬至をさかいに、昼の時間も一日二分ぐらいずつ、じわじわと長くなつてくるのです。なんとも気持ちやわらぐ一瞬です。



●「同行二人」●

回向院住職 本多義敬

生者必滅に到る前に、人は誰しも年齢と共にあらゆる機能が低下してゆくものであり、身体、頭、心の機能の中で、比較的衰えを自覚でき、またその衰えが表に現れるものは身体と頭である。最近の医学の目覚ましい発達により、身体と頭についてはアンチエイジングの種々の対処法が見られる。

ところで、心の場合はどうだろうか？ 一人一人顔が違うように、感じることも、考えること、幸せに思うこと等、一人

一人異なる心のアンチエイジングは、自分自身で見つけ出さねばならない。まず自分の真の生きがい、支えとなるものを見つけ、それを生活習慣の中にも組み込むと、心の老化を減速し、潤いのある高齢者期を築き上げるように思える。

四国の巡礼者が羽織っている浄衣には「同行二人」と書かれている。これは弘法大師と共にあるという意味であり、私にとってそれは阿弥陀さまである。正月や彼岸などの時折々にみ仏さまの教えを強く意識し、その思いに近づき努力をするならば、み仏さまはいつもおそばにいて下さる気がする。たとえ毎日の朝勤においてご先祖の供養をする時、ご供養のみならず、かような自分本位な気持ちを持っていたとしても、阿弥陀さまはおおらかにお許し下さるように思える。

本年もみ仏さまと問答をし、み仏さまのお力を借りながら、心の昂揚を高め、若い人に負けない澁刺とした心を持つてようチャレンジしていきたいと願っている。

民話の小箱 (福島県)

お花とごんべえ ● 喰いじ



昔々、ある村にお花というキツネと、ごんべえというタヌキがすんでいました。二匹とも、化けるのがとても上手です。

ある日の事、お花とごんべえがバツタリと出会いました。

ごんべえは、わざとていねいに言いました。

「お花さんは化けるのがとても上手かそうだけど、おいらとどつちが上手か

な？」

「さあ？どつちが上手か、化け比べをしてみたいとわかんないわ」

それを聞いたとたん、ごんべえが腹を立てました。

「よし、どつちが上手か、化け比べをしよう」

「いいわよ。明日の晩、お宮さんの境内(けいだい)へきてちょうだい」

お花はそれだけ言って帰った。

(女のくせに、なんてなまいきなキツネだ。必ず負かしてやる。さて、何に化けてやろうか?)

何しろお花の化ける花嫁姿ときたらごんべえもほれぼれするぐらいきれいで、いつも人間の娘とまちがえてしまいます。

それには化けるのが上手なごんべえでも、男の身ではちよつとね。

さて、お花はというと、

「ごんべえつたらどうせ私に勝つてこないのに。まあいいわもう二度と化け比べをしようなんて言い出せないようにしてやる」

と、言つて何度も何度も花嫁姿に化け

一口法話



和顔愛語の心

お念仏を称え、「まごころ込め」が相手と善くなるよう尽くし、いつもここにこにこ明るい笑顔、いつもここにこやさしい言葉」と阿弥陀様の和顔愛語の布施の心をいただきました。

ところで私たちは、和顔愛語の心で子どもたちに接しているでしょうか。ある本に書かれていた「カ・キ・ク・ケ・コの父」をここで紹介します。

【か】甘父 子供に甘く、ものを買い与え、子供の機嫌ばかり取る父親

【き】金父 子供に分不相応なお金を与え、世の中すべて金で解決できると思っている父親

【く】勲父 我が子を勲章にしようとする人間を地位名誉に置き、一流大学・一流企業に入り社会的高い地位につかせようと、自分の価値判断を押しつける父親

誘いの書



「醂 味」 故林 錦洞書
貞林院瑞正寺 住職 林 清方



る練習をしました。
さて、いよいよ化け比べの夜が来ま
した。
お花はさつと、花嫁姿に化けました。
練習をただけあって、とても美しい
花嫁姿です。
そしてお花は、本物の花嫁みたいに
はずかしそうにうつむきながら、お宮

さんへ行きました。
ところが鳥居(とりい)をくぐろう
として、ふと下を見ると、ホカホカと
ゆげのたつているまんじゅうが落ちて
いるではありませんか。
お花は思わずつばを飲みました。
あたりを見回してみましたが、ごん
べえはまだきていないようです。

金文(中国の古代文字)で書か
れた「醂味」です。三文字で空
いた空間に落款が押されています
が、これが全体のバランスを整え
作品をより引き立てています。書
家が押す落款の場所に決まりはな
いですが、位置も大事なポイント
となります。

「醂味」とは極上の食材で出
された料理などに対してよく使わ
れる言葉ですが、元来は仏教用語
です。醂とは本来牛や羊の乳を
精製して出来た極上の液汁のこと
であり、この味が醂味となる訳
です。この極上の味が転じて仏さ
まの最高の教えという意味となり
ました。

禅の世界でも「三徳六味」とい
う言葉があり、これは料理や食膳
に対する細やかな心遣いを示して
おり、仏さまの教えを基本に説か
れているものです。
正月に食べるおせち料理は、ま
さに和食の醂味と言ってもいい
でしょう。おせち料理の一品ごと
にはそれぞれ意味が込められてお

(いまのうちだわ)
お花は急いでまんじゅうをひろって、
口の中へ入れようとしました。
そのとたん。まんじゅうがパツとタ
ヌキに変わったのです。
「あははははは、なんだ、いくら美し
い花嫁に化けても、やはり食いしん坊
のキツネだなあ。」
はずかしくなったお花は花嫁姿に化
けているのも忘れて、しつぽを出した
まま逃げてしまいました。
それを見ていたお月さまもクスッ
おしまい
(欲もいろいろ、こんなはクスッ)

総本山知恩院布教師会ホームページより

「ケ」兼父 優柔不断で、主体性の
ない父親
「コ」恨父 不満を社会や同僚のせ
いにしめて、愚痴や恨み言の絶
えない父親
このような事は、父親だけでなく
母親にも、先生や上司にも当てはま
ると思います。そのような大人に育
てられた子は、甘えっ子で、正しい
金銭教育がなく、正しい見方が出来
ず、人のせいばかりして、ついには
プレッシャーに負け、心のダメージ
を受け、学校や家庭内で問題を引き
起こすのではないのでしょうか。その
時こそ、「和顔愛語」の精神を活用
すべきと思います。



謹賀新年

寺内一同、おかげさまで元気に年を越すことができました。今年も心を新たに精進いたしますので、檀信徒の皆様におかれましては、今後とも寺の護持興隆にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

未年の守り本尊は大日如来です。大日とは「大なる日輪」という意味で、太陽を遙かに上回る光ですべてを照らすことを意味します。このことから「太陽の子」または「宇宙の真理」であるとされ、すべての仏や菩薩あらゆる現象の根源とされています。無限の智慧と慈悲を持ち、この世に平和と繁栄をもたらすとも言われています。

今年一年、檀信徒の皆様が平安に過ごされますよう念じております。

貞林院瑞正寺

- 住職 林 清方
- 副住職 林 良政
- 法類総代 林 英道
- 同寺総代世話人一同

平成二十七年 年中行事のお知らせ

本年の行事につきましては、下記のとおり予定しております。近づきましたらあらためてご案内いたしますので、お誘い合わせの上ご参詣ください。

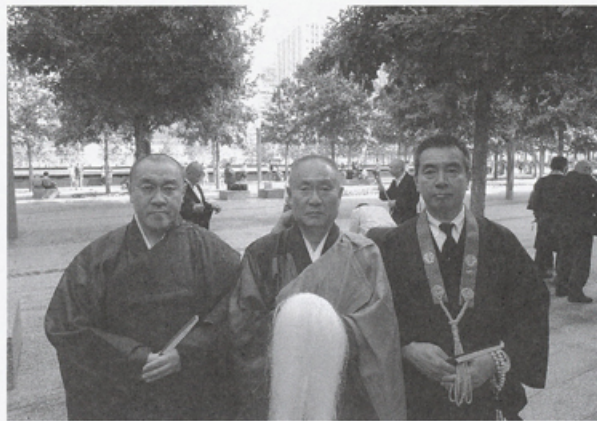
*春・秋彼岸会法要につきましては、寺からのご案内はありませんが、中日に塔婆回向をしておりますので、ご希

望の方は電話・ファックス、メール等によりお申し込みください。

- *春彼岸会法要 三月二日(土)
- 施餓鬼会法要 五月十四日(木)
- 七月お盆法要 七月十二日(日)
- 八月お盆法要 八月十三日(木)
- *秋彼岸会法要 九月二三日(水)

浄土宗平和協会海外研修

昨年の九月一日から九日間、浄土宗平和協会主催の海外研修に初めて参加しました。



「グランドゼロにて(中央は団長の荻野上人)」

この会は国や信条を超えて平和への普遍的活動(平和念仏募金によるNGO支援・国内の私費留学生への支援等)を行っております。今回で第八回目となる海外研修は二十名の参加で、ニューヨークのグランドゼロでの慰霊とボストンのハーバード大学及びサンフランシスコのバークレー大学での講演を聴くことが目的でした。両校での講演はそれぞれの大学の教授(阿部龍一氏とマーク・ブラム氏)からのお話でしたが、米国内での仏教学の状況や学生から

見た仏教などに関するものでどれも興味深いものでした。特に現在の日本における寺や僧侶の在り方については、我々僧侶が反省させられることばかりで非常に有意義な意見を聴かせていただきました。今回の研修で得られた多くのものを今後の寺づくりを生かしていきたいと思えます。

本堂屋上の防水工事が完了

昨年十月に本堂の防水工事を行いました。前回は平成十五年に本堂外壁の再塗装に併せて行いましたが、十年が経過したため、早めの処置として再度施工したものです。今回の工事費は約三百万円でしたが、毎年納めていただいております護持会費から充当いたしました。今後も修繕費の積立など有効に使わせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



「雨漏りする前に早めに施工」

(貞林院瑞正寺)